

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 学校教育学部	3
2. 学校教育研究科	5
3. 教育実践高度化専攻	7
4. 連合学校教育学研究科	9

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
学校教育学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
学校教育研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育実践高度化専攻	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
連合学校教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 学校教育学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 4)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 4)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 30 年度 3 月末に改修した e ポートフォリオ「CanPass ノート」の運用を 4 月から開始し、学部学生がスマートフォンから活動記録・学修成果シートを入力・登録する機能、及び学部学生が登録した際に、クラス担当教員・指導教員へ即時に通知が届く機能の追加により CanPass ノートの使用環境を改善し、学部学生や教員の利便性・機動性を向上させた。
- 学生のボランティア登録者数は、平成 28 年度 619 名（うち学部学生 448 名）、平成 29 年度 581 名（うち学部学生 452 名）、平成 30 年度 583 名（うち学部学生 447 名）、令和元年度 528 名（うち学部学生 391 名）であり、課外での教育活動として重要な機能を担うと共に、地域の教育に果たす学生の役割が大きくなっている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 教育の質保証と教員養成の高度化に反映させるため、兵庫教育大学の卒業生・修了生の教育現場での評価を勤務校の管理職等に依頼する郵送調査を平成 29 年に実施した。ディプロマ・ポリシーに挙げる 5 つの資質能力については、「同僚や保護者・地域との連携・協働」に関する 3 項目において平均で 81.4% の管理職が『身につけている』と評価していた。

2. 学校教育研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 6)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 6)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 学修成果の可視化を進めるために、教育支援システムが保有する成績データを活用して、教員が成績分布図を確認できるようにシステム改修を実施した。これにより、教員は成績評価を確定する前に自身の成績評価の妥当性を吟味できるようになった。令和元年度には、教員養成スタンダード（大学院）の専門性の実現に向けた自己評価票に記述された内容をもとに、大学院での学びを可視化するための取組を行い「教員養成スタンダード（大学院）に基づく学生の力量形成の状況」を取りまとめた。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

3. 教育実践高度化専攻

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 8)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 8)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 文部科学省の調査研究事業として、新しい時代に対応した学校管理職マネジメントプログラムを構築した。平成 28 年度は、「総合的な教師力向上のための調査研究事業」による、都道府県教育委員会や教育センター等主催の学校管理職マネジメント研修会において、開発したテキストを使用した研修を実施した。また、文部科学省主催による「教師力向上に関する事業」フォーラムにおいて、兵庫教育大学が取り組んでいる「新しい時代に対応した、学校管理職の育成に関する研修テキストの開発、講師育成」についての成果発表を行った。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

4. 連合学校教育学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 10)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 10)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 学生の学会発表の経済的支援として、国際学会等発表旅費への支援（募集・審査）を平成 28 年度以降 40 件、学会発表旅費等への支援（全員対象、3 万円×2 学年／人）を全学生に対して行っている。また、遠隔地で授業をする場合の担当教員または受講学生に対する授業旅費支援、D2 学生研究発表会に参加する学生への旅費の支援を平成 28 年以降 150 件行っている。
- 海外の研究者と連携して行われる連合学校教育学研究科共同研究プロジェクトには、学生の参加が要件とされており、学生は国際的研究に直接関わり、学会発表等を行う。また、連合学校教育学研究科が学生に対して経済的支援を行った活動に限っても、平成 28 年度以降、国際インターンシッププログラムは 5 件、国際学会等での発表は 40 件あり、活発に行われている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。